

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫

◆◆◆ No.0438 ◆◆◆

17/06/28

【「ドル大底達成」後の展開を考える】

「ドル弱気派」の筆者はまだ完全に諦めていないものの、金融市場ではドル/円の先行きについてジワリと「強気見通し」が幅を利かせはじめている。実際、今月 14 日付当レターでも指摘したように、過去のパターンでいうところの「底入れ条件」を幾つか達成するなど、ドルの底入れがうかがえる様相となってきた。「弱気派」の分が悪いことは確かだろう。

いずれにしても、仮にドル底入れとの見方が正しい場合、今後はいったいどういった値動きをたどるのだろうか。サイクルや経験則などを参考に以下で検証してみたい。

◎次回「大天井」は 2022-23 年が有力、最低でも 120 円以上の公算大

前述した今月 14 日付の当レターでもレポートしたが、まず忘れてはいけないのは、4 月 17 日安値の 108.13 円そして 6 月 14 日安値の 108.75 円でダブルボトムを形成し、「ドルが底入れした」とすれば、それは単なる「目先の底入れ」や「年内最安値示現」といったことではない。

この件についての詳細は、14 日付の当レターに譲るが、少なくとも今後 1 年程度、長ければ数年スパンにおける「ドルの大底を記録した」公算が大きいことになる。つまり、これを逆に言えば、ドルの上昇基調はまだ始まったばかりであり、今後かなりのレベルまでのドル高進行が期待できるのかも知れない。

当レターで過去に何度もレポートしているように、為替市場のみならず、株式など金融商品には様々なサイクルが存在している。そのなかで、ドル/円の「長期的なドルのトップから次のトップまでのサイクル」に目を向けると、おおむね 7-8 年サイクルが存在していることが見て取れる。変動相場制以降の動静を、まずはピックアップしてみたい。

(1); 1975 年 12 月 307 円
(3); 1990 年 04 月 160 円

(2); 1982 年 11 月 278 円
(4); 1998 年 08 月 147 円

* 2002 年 01 月 135 円 (イレギュラー)

(5); 2007 年 07 月 124 円

(6); 2015 年 06 月 125.86 円

(7); 2022-2023 年 ?

前述したように、ドル/円の「次の大天井」は(7)として記した 2022-23 年が最有力候補であり、本稿執筆時の日時から考えても、あと 5-6 年はドル高・円安基調が続く可能性が高いようだ。

なお、ドルの上値メド、想定される「大天井」のレベルについて、具体的に指摘することは難しい。しかし、「2015 年 6 月以降のサイクル」において、昨年 1 月にドルは 118.66 円の高値を記録しており、一連の過程のなかで、この「ミニ天井」を超えていくことだけは疑いない。

とするなら、最低でも 120 円以上、場合によっては前回高値の 125.86 円を超えていく展開があっても不思議はないように思われる。なかば余談めく話になるが、今後到来するドル高値トライの動きのなかで、久方ぶりに政府・日銀による実弾介入、「ドル売り・円買い」介入を見ることが出来るのかも知れない。

とは言え、それらは飽くまでも 2022-23 年と推測される「数年」というかなりの長期スパンに向けての話。一本調子のドル高進行も予想しにくく、短期的には当然紆余曲折も予想されている。

また、上記シナリオは、前提として「ドルがすでに大底を打った」という仮定に基づいた話であることを再度お断りしておきたい。今年 4 月や 6 月に記録した 108 円台前半のドル安値を、今後下回ってきた場合にはシナリオ変更を余儀なくされそうだ。「ドル弱気派」としては、その可能性もゼロではないと考えているのだが果たして……!?(了)

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

